

令和4年度

一般入学試験A日程 学科試験問題

国語

1. 試験時間は、2科目合わせて120分間です。
2. 問題は、この冊子の1～23ページにあります。解答用紙は別に2枚あります。
3. 解答は、解答用紙の問題番号に対応した解答欄に記入してください。
4. 問題や解答を、声に出して読んではいけません。
5. 印刷の不鮮明、用紙の過不足については、申し出てください。
6. 問題や解答についての質問は、原則として受け付けません。
7. 終了の合図があったら、すぐ筆記具を置いて、解答用紙を机の上に伏せてください。
8. この問題用紙は、持ち帰らないでください。
9. 不正な行為があった場合は、解答をすべて無効とします。
10. 答案の文字は、ていねいに、かつ明瞭正確に書いてください。
11. その他、試験の進行については、監督者の指示に従ってください。

植草学園大学 保健医療学部

| | | | |
|------|--|----|--|
| 受験番号 | | 氏名 | |
|------|--|----|--|

第一問 次の文章を読んで、後の問い（問1〜6）に答えなさい。

会話において誤解が生じる大きな原因となり得るのが「遠回しな表現」「婉曲的な言い回し」の解釈の取り違いです。これはとくに日本人によく見られる傾向にあります。

「イエスならイエス」「できないならできない」「好きなら好き」と、むき出しの言葉で相手に真意を伝える欧米流のコミュニケーションと違い、日本には^A「言葉の裏に隠された真意」を読み取りながらやり取りするという文化が根強く残っているからです。

象徴的な例としてよく挙げられるのが、「京都のぶぶ漬け（お茶漬け）」です。京都の人の自宅を訪問したときに、「ぶぶ漬けでもどうですか？」と言われたら、それは「もう帰ってください」の意味。真に受けて「ご馳走になります」などと答えて待つていようなものなら「アブスイな人」と失笑されるというもの。あくまで「都市伝説」的なもので事の真偽はわかりませんが、京都人の気質を表すエピソードのひとつとして知られています。

そして、ここまで極端ではないにしろ、私たちの日常会話にも、そのままストレートに受け取ってしまうと真意が伝わらない婉曲的な表現が少なくありません。

子どもは思ったことをそのままストレートに表現しますが（それが子どもらしさでもあるのですが）、大人同士のコミュニケーションでは、言葉や表現に何かしらの「意図的な補正」が施されていることがよくあります。

遠回しだったり、オブラートに包んだり、お世辞だったり、イケンソンしたり……。そこにはストレートな言葉をぶつけたときの衝撃を和らげようという日本人ならではの、そして大人ならではの気遣いが存在しているのです。それゆえに、聞き手になったときには相手の言葉にかけられた補正を読み解き、その奥にある相手の真意を慮った上で、適切な対応をすることが求められます。

女性とデートしているとき、「今日は新しい靴なのよ」と言われたら、「あーそうなんだ」では不十分。靴をほめるのは絶対必要。その上で、靴をほめるだけでなく、その裏にある真意を「ということ、足が痛いからゆっくり歩いてほしいのかな」と想像して歩調を緩められるかどうか。

「おなか空いてない？」と聞かれたら、自分は空いていなくても、女性からの「B」という意味表示かもしれないと慮れるかどうか。

マンションのお隣さんに、「お嬢さん、ピアノが上手になりましたね」とほめられたら、正直に喜ぶ一方で、ひよつとしたら相手には「でも、音量には気を遣ってほしい」という意図があるかもしれないと想像して、練習時間や音量に改めて気を向けられるかどうか。

先ほどの「ぶぶ漬け」にしても、「本音を言わない京都人の気質」というよりは、露骨に「早く帰って」と匂わせて客に不快な思いをさせないための、京都人ならではの気遣いと捉えるべきかもしれません。そして、その婉曲表現から真意を読み解き、「もしかしたら長居し過ぎたかもしれない」とウジセイできるのが「大人」の振る舞いではないかと思えるのです。何でもかんでも懐疑的になる必要はないのですが、場の状況によっては言葉に補正がかけられている可能性があることを意識しながらやり取りできる。これもまた、コミュニケーションにおける「大人の読解力」なのです。

^c読解力が欠如している人は他者の言葉を曲解しがちで、他者の言葉を曲解しがちな人には、「キレやすい」傾向が見られます。

- ①あくまでも「ひとつの例」として持ち出した一般論なのに、それを「自分への批判や非難」だと曲解してキレる。
 - ②心配してかけてくれた言葉を、嫌味だと曲解してキレる。
 - ③親切や気遣いをおせっかいだと曲解してキレる。
 - ④最後まで話を聞かず、話の一端だけで勝手に解釈して激昂する。
 - ⑤相手の意図を理解せずに勝手に肯定的感情をくっつけて、勝手に怒りに昇華させる。
 - ⑥自分の主観だけで勝手に意味を決めつけ、しかもそれが正しいと思い込んで冷静な思考ができなくなる。
- 他人の言葉に過剰反応してすぐに激昂するキレるのは、その言葉の真意を読み取れていないからです。早とちりして曲解して、勝手にネガティブ思考になって、勝手に激昂する。すぐキレる人は言葉の意図や真意を理解できないまま、勝手に怒りのアクセルを踏み続け、畳みかけるように怒鳴り散らして收拾がつかなくなるのです。
- 正しく読み解ければ言葉の真意はわかるし、冷静に読解できれば「揚げ足を取っているだけ」「自分の都合で不機嫌にな

っているだけ」だと自覚することもできます。そうすればキレる前に自制することもできるでしょう。

そう考えると、他者の言葉からその真意を汲み取れる大人の読解力とは、思い込みや曲解によって「ゾウフク」される人間の内なる攻撃的感情に歯止めをかける「ロジカルなブレーキ」でもあるのです。

近年、怒りが抑えられずに他者を罵倒したり、高圧的に責めたりする「キレやすい高齢者」の話題をニュースで目にする機会が増えています。高齢者が怒りを抑制できなくなる原因のひとつには、加齢による脳機能の低下とそれに伴う理解力の低下があると考えられています。相手の言葉を読解し、理解するロジカルブレーキの「利き」が鈍くなることで、イライラや感情の暴発が起きやすくなっているのです。

^D「読解力が高い人に「すぐキレる人」はまずいません。「読解力」という名の、感情の暴走を抑制するブレーキは、円滑なコミュニケーションや良好な人間関係の維持に不可欠な、社会人としての「標準装備」と言えるでしょう。

前項で述べたように、読解力不足で自分がキレてしまつてはコミュニケーションが成立しません。ならば逆に、「相手をキレさせない」ことも、良好な人間関係を保つために欠かせない大人の振る舞いになります。

最近よく聞く「地雷を踏む」という表現があります。地中に埋められている地雷は、パッと見ても存在がわかりませんが、誤って踏むと大爆発します。それが転じて、相手が「触れられたくなくて隠していたこと」をうっかり刺激して怒らせてしまうことの喩えとして使われるようになりました。

人は誰でも多かれ少なかれ地雷を抱えながら生きています。それは欠点であったりコンプレックスであったり「黒歴史」といわれるような忘れたい出来事だったり――。傍から見ればほんの些細なことであっても、本人にとっては「取扱注意」の大問題。だからこそ普段はみんな、他者に知られまいと心の奥にしまい込んで隠しています。それを何気なく不用意に引っ張り出すと、たとえ「そんなつもりじゃなかった」としても、人間関係に「こじれ」が生じてしまいます。

「おれはバカだ」というコンプレックスを持っている人に対して、「バツカだなあ」「また、バカなこと言っちゃって」「おバカちゃんだねえ」などと親しみを込めたつもりで言っても、「バカ」という言葉だけで地雷のスイッチがオンになってしまふ、といったトラブルにつながってしまうわけです。

地雷を誤って踏まないためには、まずその人の地雷となり得る劣等感やコンプレックスの所在を意識することが重要にな

ります。その所在さえわかっていたら、「誤爆」の危険性はかなり低くなるはず。それもまた、大人のコミュニケーションに必須の読解力なのです。

また、人にはみな、近づかれると違和感や不快感を覚える距離感があります。それを「パーソナルスペース」と呼ぶのですが、それは物理的な身体の距離だけでなく心理的な距離にもあてはまります。

触れてほしくないことや踏み込んでほしくない話題といった地雷の多くは、その人のパーソナルスペースに隠されているもの。そのため、地雷を回避するには、相手のパーソナルスペースに不用意に立ち入らないように心の距離感を意識し、気を配っておくことも大事になります。そして、それにはやはり「相手の立場に立って、相手の目線と気持ちで考える」姿勢が求められるのです。

とはいえ、地雷は思わぬところに埋まっているものですし、パーソナルスペースも人によって異なります。ですから、ただだけ意識して気を配っても踏んでしまうことはあるでしょう。むしろ、100%回避することのほうが難しいかもしれません。

さらに、必要以上に地雷を意識しすぎるあまりコミュニケーションそのものに臆病になってしまうのも、それはそれで

E

です。

ですから、配慮したつもりでもうっかり地雷を踏んでしまったら、下手に言い訳をせずに素直に潔く「ごめんなさい」と謝る。そして自分の発言のどこが「パーソナルスペース」を^オシンパンしてしまったのか、どの地雷のスイッチを押してしまったのかを振り返って考えてみることです。ミスや失敗は、読解力アップの肥やしにすればいいのです。

(齋藤孝『大人の読解力を鍛える』より)

*出題の都合上、原文の一部分を改変してあります。

問1 ア～オのカタカナで示した語の傍線部分と同じ漢字を含むものを、それぞれ後の1～4の中から一つ選びなさい。

ア ブス|イ

- 1 川のスイシツ検査
- 2 キツスイの江戸っ子
- 3 デイスイするまで飲む
- 4 計画をスイシンする

イ ケン|ソン

- 1 ケンキョな態度
- 2 ケントウを祈る
- 3 各地にサンケンする風俗
- 4 詐欺罪でリツケンする

ウ ジセ|イ

- 1 セイジツな人柄
- 2 世知辛いゴジセイだ
- 3 行いをハンセイする
- 4 反乱をセイアツする

エ ズウフク|

- 1 フクザワユキチの啓蒙思想
- 2 フクザツな人間関係
- 3 オウフクの料金
- 4 ゼンプクの信頼

オ シン|パン

- 1 台風のシンスイ被害
- 2 ファシン条約を結ぶ
- 3 確定シンコクをする
- 4 肺炎とゴシンされる

問2 傍線部A『言葉の裏に隠された真意』を読み取りながらやり取りする』とありますが、その理由の説明として最も

適するものを、次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 子どものように思ったことをそのまま表現するのは大人の会話ではあり得ず、非常識と思われるから。
- 2 「遠回しな表現」や「婉曲な言い回し」には、相手の理解力を測ろうとする意図が隠されているから。
- 3 むき出しの表現に意図的な補正を施し、聞き手に過剰な衝撃を与えないようにする気遣いがあるため。
- 4 どの国の言葉でも相手に対する思いやりなしには、真意の伝わるコミュニケーションはできないため。

問3 空欄Bに入る言葉として最も適するものを、次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 食事時だからもう帰りましょう。
- 2 昼食の時間になりましたよ。
- 3 貴方はおなかが空いたでしょう。
- 4 私はおなかが空いたんだけど。

問4 傍線部Cの後には「キレイやすい」具体例として①～⑥が挙げられていますが、一つだけ正しくないものがあります。

何番が正しくないのかを選び、その正しくない理由を二十字程度で説明しなさい。

問5 傍線D『読解力が高い人に「すぐキレる人」はまずいません』とありますが、その理由の説明として最も適するものを、次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 読解力の高い人は相手の言葉の真意がわかり曲解しないので理性的に判断できるため、自分の感情をコントロールすることが可能だから。
- 2 読解力の高い人は他者の言葉の発する真意をすぐ理解できるので、地雷を踏まれてもその事実をなかつたこととして受け止められるから。
- 3 読解力の高い人の脳機能は低下することはないのでつねに相手の言葉を正しく理解でき、曲解したとしても感情の暴発は起こさないから。
- 4 読解力の高い人の会話ではどんな乱暴な言葉でも冷静に交わされるので感情が刺激されることはなく、怒りを発する意味が全くないから。

問6 空欄Eには四字の熟語が入りますが、文脈を考えて最も適するものを、次の1～5の中から一つ選びなさい。

- 1 意識過剰
- 2 優柔不断
- 3 本末転倒
- 4 枝葉末節
- 5 当意即妙

第二問 次の文章を読んで、後の問い（問1～6）に答えなさい。

細論に突入していきそうな気配に、三田村は思わず口を挟んだ。

「何を伝えたいかを先に考えたほうがいいんじゃないの」

「そうですね、と猪俣も同意してくれた。

「お客さんは子供の気持ちの部分聞きたいと思うよ。例えばこういうこととか」

猪俣が奏子のメモ書きを指で差した。猪俣がペケを付けなかった箇条書きの一つに「かわいそうだと思ってほしくない」というものがあつた。

「いいじゃんそれ。知らない人が一番勘違いしそうな部分だよ」

「ていうか、来たばつかの頃の慎平ちゃんでしょ」

「だから自分のアも踏まえて言ってるんだよ」

『ママがいなくなった』の描写を理不尽だと憤るくらいの知識があつた三田村でも、施設の子供がかわいそうだというイメージからは逃れられていなかった。

親と一緒に暮らせないなんてかわいそうに。——親と一緒に暮らすことが幸せとは限らない。結婚していても幸せとは限らないように。施設に入ったことで落ち着いて暮らせるようになる子供は大勢いる。

子供たちを傷つけるのは親と一緒に暮らせないことよりも、親と一緒に暮らせないことを欠損とみなす風潮だ。

子供は親を選べない。自分ではどうにもならないことで欠損を抱えた者として腫れ物のように扱われる、^Aそのことに子供たちは傷つくのだ。

「あと、『日だまり』をなくさないでほしい」

久志がそう付け足した。

「じゃあ、ヒサヤカナにとって『日だまり』がどういうふうに必要な場所かってことを分かってもらわないとな」

猪俣のアドバイスに、久志はすかさず「無目的なところ」と挙げた。

無目的ってワードは俺が最初に読み解いたんだよな、と三田村としては鼻が高い。

「無目的であることの大切さを分かってもらうには、どんな話をしたらいいかな？」

猪俣が問いかけると、久志と奏子は「気軽に行ける」「気が抜ける」などと口々に答えた。

「時間割とか役割に追い立てられないのがいいよね」

「施設だと食事の時間とか掃除の時間とか決まってるし、やらなきゃいけないこと色々あるもんな。掃除とか洗濯とか、チビの世話とか」

「だからだとしても真山さんほっといてくれるし」

「だからだっというの大人ウケが悪いからさ、」

三田村はそう口を挟んだ。

「リラックスできる、とかにしといたほうがいいよ」

「同じことじゃん」

「同じことでも、言葉のイメージって大事なんだよ。同じことでも時間にルーズって言ったら短所だけど、気が長いって言ったら長所だろ」

マイナスイメージを持たせる言葉は、プラスイメージの言葉に置き換えるのが営業の基本だ。

『『日だまり』の営業マンになったつもりで言葉を選ぼうぜ』

「じゃあカナが女ハヤブサタロウだ」

久志が楽しげにそう呟く。奏子も悪い気はしないようだ。

「何かいろいろ話せそう。無目的なペースが大切なのはリラックスできるからで、リラックスできるペースが大切なのは、施設だと時間に追われちゃうから……と」

奏子が生き生きとノートにメモを取っていく。

「真山さんと最初の頃に話してたことも入れてみたら？」

和泉からもアドバイスが出た。

「高校に合格しないと施設にいられないって話」

「あ、それいいですね。へビーさが伝わりそう」

居場所を確保するために、満十五歳にして義務を果たさなくてはならない、というイさは一般家庭の人々からすれば驚きだろう。そのイさを下敷きにすれば、義務も目的も必要ない場所がどれだけ心休まるかということも伝わりやすい。

あれこれ話していて、ふと久志が呟いた。

『日だまり』ってそんなに大金かかっているのかな」

大人三人は顔を見合わせた。

真山に聞いたところによると、家は支援者から格安で借りているというし、職員も真山一人だ。決して法外な費用がかかっている施設ではない。

「お金かかっているわけじゃないなら、予算削減から外してくれても良くない？」

「残念ながら、無駄だと思われてるんだろうね」

猪俣が答えた。

「施設でさえ予算が充分じゃないのが現状だからね。『日だまり』のような緊急性のない施設は余計に風当たりが厳しいだろうな」

「緊急性はなくても必要性はあるよ」

不服そうな久志に猪俣が笑いかけた。

「もちろんだとも。それを理解させに行くんだろう？」

「何で児童養護のお金ってこんなに少ないの？」

率直な疑問は奏子だ。

『あしたの家』だって五年も前から建替えの話が出てるのに、ちっとも進んでないよね」

全国的には児童養護施設は、大舎制から中・小舎制へ移行する流れになっている。子供を綿密にケアするため、『あしたの家』も子供たちを中舎制二つに分けての移転の話が浮上しているのだが、予算が獲得できず一向に実現に至らない。

「その不満を言い出すなら私が一番言いたいけどね」

猪俣は苦笑した。勤続が長いだけに不満は若手の比ではないだろう。

「まあ、世間の関心が薄いからということになるのかなあ……」

「けっこうズバツと言いますね」

三田村が慄くと、「取り繕っても仕方ないですから」と猪俣はけろつとした顔だ。

「施設が社会的に不遇なことは三田村先生より実感してますよ、この子たちは」

そりやもう、と久志が頷いた。

「社会的にウされてるなら、被服費と靴下代がとつくの昔に別になってる」

「未成年者は社会的な発言力がないからね」

当事者の社会的発言力が弱い分野は、行政でも政治でも後回しになるのが世の常だ。

「社会福祉の中でも児童養護は何かと手薄になりがちで……」

「老人福祉とかは手厚いんですか？」

「手厚いかどうかはともかく、働きかける方法がありますよ。何しろ選挙権がある」

「そっか、老人医療や年金問題も政治のリアクション早いですよね」

「障害児福祉なら障害児の親から働きかけられるし、障害者は投票が難しいケースもありますが、自身が選挙権を持ってますから」

「うわー、政治って露骨だなあ」

三田村が唸ると、「何いまさら青二才みたいなこと言ってるの」と久志から突っ込みが入った。

「その点、児童福祉の中でも児童養護はエアポケットに落ちてしまうんですよね」

児童養護施設に入所している子供たちには、^Bその権利を主張してくれる親がない。存命であっても関係性が良好でないことが圧倒的だ。

「退所すれば、児童養護の当事者ではなくなるし、成人後も施設に心を砕ける余裕がある当事者はそう多くありません」

頼れる親や実家がない状態で社会に乗り出す子供たちは、自分が生活していただくだけで精一杯だ。また、施設の出身であることを隠したがる当事者も多い。

「でも、おかしいよそんなの」

奏子が唇を尖らせた。

「そりゃあ、今すぐ選挙権はないけど、わたしたちだって大人になるのに」

その言葉を聞いて、――頭の中で火花が散った。

「今、わたしたちのことを考えてくれる政治家がいたら、大人になってから絶対応援するよ」

「それだ！」

いきなり大声を出した三田村に、他の全員がぎよっとした。

「プレゼン」**エ**は正に政治家だ！ 『こどもフェスティバル』には市議や県議も来るんだろ？ うってつけだ！」

なるほど、と猪俣が頷いた。

「確かに児童養護施設は未来の票田だ」

「そうです！ 児童養護施設の子供たちが含み資産だと理解させたらいい。児童養護の社会的な意味づけを変えるんです」

現状、児童養護は社会の義務であると同時に負担のように思われている。

「でも、本来、児童養護は社会の負担じゃなく投資であるはずなんです」

そのまま放っておけば貧困や虐待で社会の波間に沈んでしまう子供をサルベージし、自立した社会人として送り出す。それが投資でなくて何だ。

「より良い人材を社会に回収するための投資だと思ってもらえれば、関心も高まるし、必要性も理解してもらえますよ！

『日だまり』は退所した子供たちが波間に沈んでしまわないための監視所であり、長期メンテナンス施設です。予算が認められて然るべきだ、人間は成人するのに二十年もかかるんだから。メンテナンスなしでぼんぼん沈ませてたら、社会全体では何十年何百年もの損失です」

ソフトウェア会社の営業をやっていた頃、人材は何よりも重要な商品だった。優秀なSEが一人辞めると露骨に売上げが

落ち込んだ。

たった一人でも会社の利益をそんなに左右するのに、社会全体ではいっただれほどの損失になることか。気がつくとも奏子がガリガリとノートを取っていた。三田村が喋るのと同じ速度で手を動かしている。

「……『価値観を転倒させろ』」

久志が呟いた。

すると猪俣が続けて呟いた。

『『価値観が転倒するところには必ずビジネスチャンスが生まれる』か……』

「ハヤブサタロウだよ」

奏子が教えてくれた。

「慎平ちゃん、ハヤブサタロウみたい」

奏子としては最大級の「オ」だろう。だが、

「ハヤブサタロウはカナちゃんだよ」

わたしたちだって大人になるのに。——価値観の転倒はその一言から始まっている。

カナが掴んだ。

「三田村先生は何で『あしたの家』に来たんですか」

そう言った猪俣の声の調子は、まるで非難するかのようだ。

「何か、来ちゃいけなかったみたいなの振りですね」

「どっちかっていうと、行政のほうに行っただけじゃなかったですよ。現場から変えられることなんてわずかですから」

非難しているのではなく、D。

「でも、ここに来なかったらこんな発想で来てませんから」

同僚や子供たちに揉まれてこそだ。

「二十分で足りるかなあ」

最初と打って変わって、奏子は話したいことが有り余っている様子だ。

話し合いを終えて部屋を出る。

三田村が鍵をかけると、和泉が何となくそれを待った。

「……猪俣先生はああ言ったけど」

一瞬考えて、思い当たった。行政に行ってほしかったという件だ。

「わたしは、三田村先生が『あしたの家』に来てくれてよかった。ほんとは、行政に行ってくれたほうがよかったのかもしれないけど」

——天にも昇る心地、というものを生まれて初めて味わったかもしれない。

『あしたの家』に来てくれてありがとう」

「ちよ、待って」

取り乱したあまり手振りで止めた。

「大気圏突破しちゃいますから」

^E怪訝な顔をする和泉に、大気圏内にいさせてくださいと笑った。

(有川浩『明日の子供たち』より)

*出題の都合上、原文の一部を改変してあります。

問1 空欄ア～オに入る熟語として、最も適するものをそれぞれ1～4から一つ選びなさい。

| | | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|
| ア | 1 調査 | イ | 1 苛酷 | ウ | 1 考慮 | エ | 1 対象 | オ | 1 依頼 |
| | 2 習慣 | | 2 太平 | | 2 評価 | | 2 対照 | | 2 賛辞 |
| | 3 実験 | | 3 気重 | | 3 推奨 | | 3 対称 | | 3 訓示 |
| | 4 経験 | | 4 愚鈍 | | 4 優遇 | | 4 大賞 | | 4 転倒 |

問2 傍線部A「そのこと」とはどのようなことか、最も適するものを次の1～4のうちから一つ選びなさい。

- 1 無目的でいる事を非難されること。
- 2 親と一緒に暮らせないこと。
- 3 周囲の勝手な思い込みによる扱い。
- 4 施設が社会的に不遇であること。

問3 傍線部B「その権利」として、最も適するものを次の1～4のうちから一つ選びなさい。

- 1 選挙権
- 2 児童養護の福祉
- 3 投資する機会
- 4 価値観の転倒

問 4 傍線部 C 「価値観を転倒」とはこの場合どのようなことか、二十五字以内で記述しなさい。

問 5 空欄 D に入る語句として、最も適するものを次の 1～4 のうちから一つ選びなさい。

- 1 残念がっているらしい
- 2 怒っているらしい
- 3 済まなく思っているらしい
- 4 期待しているらしい

問 6 傍線部 E 「怪訝な顔」をする理由として、最も適するものを次の 1～4 のうちから一つ選びなさい。

- 1 三田村が猪俣の意見をわかっていたから。
- 2 三田村が和泉を置いてきぼりにしただったから。
- 3 三田村の照れている理由がわからなかったから。
- 4 三田村が行政に行くことの価値を理解しないから。

第三問 次の文章を読んで、後の問い（問1～5）に答えなさい。

写真の中に、我が家の飼い猫がいる。

名前はロンロン。

ブラウンクラシック・タビーの、アメリカン・ショートヘア。

三カ月ほど前に、十二歳で亡くなった。

「これとそっくりの猫、でしょう？　そこが問題なんですよねえ。ブラウンクラシック・タビーじたい、そんなに多く出回ってませんし。シルバークラシックなら、まだ、なんとかあったかもしれないんですけど」

言われなかったって、わかっている。

アメリカン・ショートヘアの主流は、タビー——縞^アモヨウの「地」の部分の毛が銀色のシルバークラシック・タビーだ。

褐色の「地」のブラウンクラシック・タビーは、せっかくのイゴウカなタビーのコントラストがいまひとつくつきりとしな
いせいかな、あまり見かけない。

「でも、ブラウンだから、ちよつとぐらいタビーの柄が違っててもごまかせるんじゃないかと思ったんですけど……」

負け惜しみ半分に言うと、店長は軽くたしなめるように「そういうものじゃないと思いますよ」と返した。「猫のお好き
なひとにとつては、タビーの一筋一筋、微妙なところにも思い入れがあるものですから」

そうですね、とうなずいて写真をバッグにしまった。

ロンロンのタビーは、しっかりと覚えている。わたしだけじゃない。我が家全員——たった一人を除いては、そう。

でも、わたしは、自分のためにロンロンの身代わりを探しているわけじゃない。お父さんもお母さんも弟も、同じだ。

四人家族——ときどき、プラスチックで一人増える。「我が家の一員」と呼べるのかどうかよくわからない、そのひ
のため、わたしたちはいま、ロンロンの身代わりを探しているのだ。

^ウ会釈して店を出ようとしたら、「ああ、それでですね……」と呼び止められた。

参考までに。

とりあえず名前だけ。

ほんとうは自分としてはそういう商売は好きじゃないんですが、妙にしつこく前置きして、店長は新しいルートを教えてくれた。

「レンタル、という手もあるんじゃないですか？」

ブランケット・キャットという猫がいるらしい。生まれたての仔猫の頃から馴染んだ毛布とともに、あちこちに貸し出される、そういう猫を扱っているショップがあるのだという。

「お客さんの条件に合う猫がいるかどうかは保証できませんが、まあ、ダメでもともとで訪ねてみるのもいいんじゃないですかね」

「レンタルって、期間はどれくらいなんですか？」

「二泊三日とか、それくらいだったと思いますよ。延長も利くんじゃないかな」

「……二泊三日」

思わずオウム返しにつぶやいていた。

悪くない。

ロンロンの身代わりが必要なひとが我が家にいるのは、三日ほどだ。

わたしはカウンターに引き返して、携帯電話を取り出した。

「すみません、そのお店の電話番号、教えてください！」

幸運が、二つ。

ブランケット・キャッツの中には、アメリカン・ショートヘアもいた。うまいぐあいに六歳のオトナで、しかも、ブラウインクラシック・タビー。

もっとも、その猫はロンロンより少し小柄で、タビーの模様も微妙に違う。少なくとも、わたしが見たときには一瞬で「あ、別の猫だ」とわかってしまった。身代わり候補の猫の写真を携帯電話のカメラで撮って、家族全員にメールで送ると、お父

さんもお母さんも弟も「候補は候補だけど……」と迷った様子の返信メールを打ってきた。

A その場では仮予約だけ入れておいて、家に帰って作戦を練り直すことにした。

ここで、二つ目の幸運が登場する。

翌日の夜、伯父さんと電話で長い話をしたお父さんは、電話を終えると、ちよつと寂しそうな顔になって言った。

「おふくろ……だいぶ目が悪くなつたみたいだな。飯を食うときの様子も、どうも、細かいところはほとんど見えてないんじゃないか、って兄貴が言うんだ」

よく考えたら、そんなもの幸運でもなんでもない。

「それに、やっぱり、惚けほのほうも、ちよつと進んできてるみたいだ、って」

幸運なんかじゃない——絶対に。

B 、おばあちゃんにとつては幸運なことなんだ、と。無理やり自分に言い聞かせた。

目が悪くて、頭のネジが多少ゆるんでいれば、タビーの細かい違いは、なんとかなる。なんとかなくてくれなければ困る。お父さんはため息交じりにつぶけた。

「ロンロンと会うのを楽しみにしてる、ってさ」

それを聞いたお母さんは、早くも目を赤くしてしまった。

理系の大学生らしく少々の「泣かせ」には動じないクールな弟も、リビングの壁に飾った生前のロンロンの写真を黙って見つめる。

おばあちゃんに抱かれている。

まだ元気だった頃——メアリー・ポピンズみたいに大きなスーツケースを引き、こうもり傘を差して、一人暮らしの自宅と伯父さんの家と伯母さんの家と我が家とをぐるぐる回っていたおばあちゃんが、写真の中でうれしそうに笑っている。

「もう八十九歳だもんなあ……しようがないよなあ……」

お父さんはそう言って、飲みかけだったビールを啜った。気が抜けてぬるくなったビールはいかにも苦そうだったけど、一口飲んだあとのお父さんの顔には、ビールよりもっと苦みが溶けていた。

おばあちゃんが我が家を訪れるのは、いつも夏の終わりだった。お父さんがまだ子どもだった頃に亡くなったおじいちゃんの旧盆の「エ供養をすませてから、位牌いはいと一緒に上京する。短いときでも一カ月近く、長いときにはコタツを出す頃まで、言葉は悪いけど、居座る。我が家は4LDKの一戸建てなので、おばあちゃんの部屋もいちおう用意はできるものの、昔はお母さんとの間でぎくしゃくした空気もずいぶん流れていたらしい。

まだわたしが子どもだった頃——七十代の頃のおばあちゃんのイメージは、偏屈なひと、の一言に尽きる。「親父が早く死んでから、再婚もせずに、女手ひとつで俺たちを育ててくれたんだから」とお父さんはかばうけど、オキゲンが悪いときのお母さんに言わせると、

「苦労したぶん、ひねくれてしまったひと」になる。

そんなおばあちゃんが、喜寿を過ぎた頃から急にまるくなり、優しくなった。ちょうど我が家でロンロンを飼いはじめた頃だ。

おばあちゃんはロンロンをもものすごくかわいがっていた。ロンロンもよくなっていた。田舎に帰るときには、孫のわたしや弟よりも、ロンロンとの別れを惜しんで、ぎゅうっと抱きしめて涙ぐんでしまうことだってあった。

ここ数年、お母さんは、ロおばあちゃんとうまく付き合っているようになった。昔は仕事が忙しくておばあちゃんの相手をわたしや弟に任せきりだったお父さんも、美味しい和菓子を買ってきて、おばあちゃんと二人でお茶を啜りながら思ひ出話にふけるようになった。

たぶんそれは、両親も少しずつ年老いてきて、もっと年老いたおばあちゃんの寂しさや心細さがわかってきたからなのだろう、と思う。

今年も、もうすぐ——来週、おばあちゃんは我が家に来る。一人では電車に乗れなくなったので、お父さんが伯父さんの家まで迎えに行く。先週は伯母さんの家で過ごし、今週を伯父さんの家で過ごしたおばあちゃんは、夏の終わりの二、三日を我が家で過ごし、そのまま、老人ホームに入る。

田舎の自宅は、伯母さんの家におばあちゃんがいる間に、伯父さんが引き払った。2DKの狭い狭い県営住宅は、家財道具を運び出したあとも、狭い狭い狭いまだだった。がらんとした部屋にたたずんだ伯父さんは、ここでおふくろは俺た

ちを育ててくれたんだ、俺たちが家を出たあともここで何十年も一人暮らしをしてきたんだ、と思って男泣きをして、何日か前にそれを電話で聞いたお父さんも、子どものように泣いた。

だったら、おばあちゃんを引き取って、一緒に暮らしてあげればいいのに――。
ときどき思う。

^E 思うだけで、何も言わない。

そういうことを無邪気に、残酷に、口に出してしまうほど、私も子どもではないから。

(重松清『ブランケット・キャッツ』より)

* 出題の都合上、原文の一部を改変してあります。

問1 傍線部ア～オのカタカナは漢字で、漢字は読みをひらがなで書きなさい。

ア モヨウ イ ゴウカ ウ 会釈 エ 供養 オ キゲン

問2 空欄A～Bに文脈に合うように接続語を入れるときに、その組み合わせとして最も適するものを、次の1～4の中から一つ選びなさい。

| | | |
|---|---------|--------|
| 1 | A とりあえず | B でも |
| 2 | A しかし | B 要するに |
| 3 | A でも | B だから |
| 4 | A そして | B つまり |

問3 傍線部C「無理やり自分に言い聞かせた」私の思いとして、最も**適さない**ものを、次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 ブランケット・キャットをロンロンと思うことで、穏やかで楽しい時間を過ごせる。
- 2 目が悪い方が、ブランケット・キャットが偽物だと気づかず楽しく遊べる。
- 3 ブランケット・キャットが偽物だとわかると、寂しくて悲しい思いをさせてしまう。
- 4 ひねくれた偏屈な人より惚けていた人の方が、家族にとっても都合がいい。

問4 傍線部D「おばあちゃんとうまく付き合っていけるようになった」のはどうしてですか。そのことを説明している最も適切な形式段落の最初の五文字を抜き出しなさい。

問5 傍線部E「思うだけで、何も言わない。」とありますが、それはなぜですか。その理由についてあなたの考えを五十字以内で書きなさい。